

コース名	生産現場力強化シリーズ③ 標準化と品質管理の進め方		
研修のねらい	取引先の求める品質レベルの高度化に対応するためには、出荷検査だけでなく全社的な品質管理の体制構築が必要となります。 本研修では、品質を製造工程で作り込むQC的な考え方とその管理の進め方を学ぶとともに、演習を通じて自社の課題解決に取り組みます。		
研修の特長	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化と品質管理の基本的な考え方を身につけます。 ・QC7つ道具を使った不良撲滅への対策を学びます。 ・自社の品質課題演習を通じて、実践力を高めます。 		
注記事項	◆本コースで学んだ成果は、当校で実施する下記コースで活かすことができます。併せての受講をお勧めします。 「モデルで学ぶ原価管理とコストダウン」2017年7月19日(水曜)～7月21日(金曜)(全3日間) 「生産計画改善とリードタイム短縮の進め方」2017年11月7日(火曜)～11月9日(木曜)(全3日間)		
研修期間	2017年10月3日(火曜)～10月5日(木曜)(3日間)		
受講対象者	管理者・新任管理者層 ・標準化や品質管理を体系的に学びたい方 ・QC7つ道具を活用した課題解決を学びたい方 ・自社の不良ゼロ化に取り組みたい方	定員	30名
		受講料	31,000円

月 日	時 間	科 目	講 師	内 容
10月3日(火曜)	9時20分～9時40分	オリエンテーション	担当職員	
	9時40分～12時40分	標準化の考え方と進め方	中村 茂弘 QCD革新研究所 所長	品質管理の基本的な考え方を学んだ上で、全社的な品質管理体制構築や標準化の進め方を学びます。 ・ISO9001の理解と効果をあげる活用法 ・品質マネジメントの実情 ・標準化の進め方と品質管理の実務
	13時40分～18時10分	QC7つ道具の使い方		QC7つ道具・新QC7つ道具の基本を理解した上で、実際の使い方を演習を交えて学びます。 ・QC7つ道具・新QC7つ道具の使い方 ・統計解析の活用 ・納入先とのデザイン・イン対策
10月4日(水曜)	9時20分～12時20分	QC手法の実践的活用法		不良ゼロ化に向けた実践力を身につけるために、QC7つ道具・新QC7つ道具の現場での活用法と、不良対策の具体的な手法を学びます。 ・QC7つ道具・新QC7つ道具の活用法 ・三現主義による事実分析の進め方 ・不良原因を追究する分析手法(NASA・比較分析) ・標準化による不良発生予防策
	13時20分～17時50分			
10月5日(木曜)	9時20分～12時20分	自社の品質改善活動の検討(演習)	中村 茂弘 QCD革新研究所 所長	研修のまとめとして、QC手法や標準化の進め方を用いて、自社の品質改善に向けた取り組みを検討します。 ・QC工程分析による不良撲滅の進め方 ・自社問題分析と品質改善活動の見直し ・グループによる検討と発表討論会
	13時20分～16時20分			
	16時20分～16時30分	修了証書授与		担当職員

※カリキュラムは都合により変更する場合がありますので予めご了承ください。※ 研修初日の18:20ごろから交流会を開催する予定です。

講師氏名	略 歴
中村 茂弘 (なかむら しげひろ) QCD革新研究所 所長	早稲田大学大学院理工学研究科卒業。日立金属(株)勤務20年、一般社団法人日本能率協会(JMA)を経て現職。ISO9001審査員補、ISO14001審査員補、JMA不良・クレームゼロ対策研究会委員主査、特許・リサイクル対策研究会主査、チームマネジメント研究会主査、技術・技能伝承対策研究会を歴任。JMA・専任講師

29年度コース別受講申込書 (FAX)

FAX.042-590-2685

★この申込書は当校で受領後、受講者情報右欄の受付状況を記載し、折り返しFAXいたします。必ずご確認ください。

中小企業大学校 東京校長 殿

年 月 日

フリガナ				代表者役職			
会社名				代表者氏名			
所在地	〒 都道府県						
TEL				FAX			
業種	E.製造業 I-1.卸売業 I-2.小売業 R.サービス業 D.建設業 G.情報通信業 H.運輸業 M.旅館業 Z.その他 具体的に()			業種分類 (製造業のみ○印をおつけください)	9.食品 10.飲料 11.繊維 11.衣料 12.木材 13.家具 14.紙 15.印刷 16.化学 17.石油 18.プラスチック 19.ゴム 20.皮革製品 21.窯業 22.鉄鋼 23.非鉄金属 24.金属製品 25.はん用機械 27.業務用機械 28.電子部品 29.電気機械 30.情報通信機械 31.輸送用機械 32.その他製造業		
主要取扱品目				資本金	万円	従業員数	人
東京校での受講実績	ある(経営後継者・経営管理者・工場管理者養成コース・その他研修) ・ない ※↑受講実績のある方は、どの研修を受講された経験があるか○をしてください。			東京校メルマガ発行時の送信可否	可 ・ 不可		
研修情報の入手先	1.ダイレクトメール 2.研修ガイド 3.ホームページ 4.受講者の紹介 5.商工団体等 6.金融機関 7.新聞・雑誌 8.テレビ・ラジオ 9.区市等の機関紙 10.展示会等 11.その他()					人材育成計画作成への関心	ある ・ ない
事務連絡担当者	フリガナ 氏名	部署 役職	担当者E-mail				

受講コース名		コースNo.	No.
--------	--	--------	-----

受講者情報①	フリガナ	年齢	性別	部署	受付状況①	受講いただけます	
	氏名	歳	男・女	役職(役職を記載の上該当区分に○) (代表者・役員・管理者・管理者候補等)		受講決定通知兼振込依頼書を開講の約1ヶ月前に連絡担当者様へ発送いたします。	
	受講者E-mail					キャンセル待ち 番です	
	【入寮申し込み】必ず受講者本人にご確認をお願いします。概要箇所の○印にチェックを入れてください。					キャンセルが発生次第、ご連絡いたします。	
	入寮する	○	⇒	入寮日	~	退寮日	
				研修開始日	○	研修終了日	○
	入寮しない	○		研修開始日の前日	○	研修終了日の翌日	○

- 1) 太枠内の該当箇所に○印をおつけください。また、入寮希望の有無・入退寮日につきましては、受講予定者本人にご確認をお願いします。
- 2) 入寮された場合の部屋割りについては、受入人数の都合で、ご希望に添えない場合があります。
- 3) より多くの企業の皆様にご受講いただきたいために、原則として1コースあたり社2名様までのお申し込みとさせていただきます。(一部コースを除く。詳しくは研修概要をご覧ください。)なお、2名様をこえる場合はキャンセル待ち扱いとなります。
- 4) 次のコースの申込書は別様式ですので、専用パンフレットをご請求下さい。「経営後継者研修」「経営管理者研修」
- 5) 受付状況がキャンセル待ちの場合、キャンセルが発生しだいご連絡いたします。受講可能な場合には、「受講決定通知兼振込依頼書」を事務連絡ご担当者様へ発送いたします。
- 6) 複数コースお申込みされる場合、申込書はコピーしてご利用ください。

個人情報の保護について 個人情報保護法に定義されます個人情報に該当する情報については、中小機構内で実施する事業で使用させていただきます。当該個人情報の第三者(業務委託先を除く)への提供または開示はいたしません。ただし、お客様の同意がある場合および、法令に基づき要請された場合については、当該個人情報を提供できるものといたします。

大学校使用欄				
--------	--	--	--	--